

2023（令和5）年さけます来遊状況（第2報：10/31現在）

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 北海道の年齢別来遊数では、4年魚（2019年級）は前年、平年ともに下回り、5年魚（2018年級）は前年を上回っているが、平年の33%。
- 北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では4年魚は前年、平年ともに下回り、5年魚は前年を上回っているが、平年の9%と1994（平成6）年以降で2番目に少ない。
- 北海道日本海側（オホーツク海区および日本海区）では4年魚は前年を下回るが、平年の125%、5年魚は前年を上回っているが、平年の57%。
- 北海道のサケの平均重量は3.03kgで前年を上回るが、1994（平成6）年以降で2番目に小さい。

*1：平年とは、1994（平成6）～2022（令和4）年の平均値

・サケの年齢組成（北海道）

北海道の河川に回帰したサケの年齢査定途中経過をもとに、10月31日現在における年齢別来遊数を推定したところ、年齢組成では、4年魚（2019年級）が全体の71%を占めて最も多く、次いで5年魚（2018年級）が23%を占めました。前年同期との比較では、4年魚は69%と前年を下回っていますが、5年魚は183%と前年を上回っています（図1）。平年同期との比較では、4年魚は76%と下回っており、1994（平成6）年以降で10番目に少ない状況です。5年魚は33%と下回っており、1994（平成6）年以降で5番目に少ない状況です。

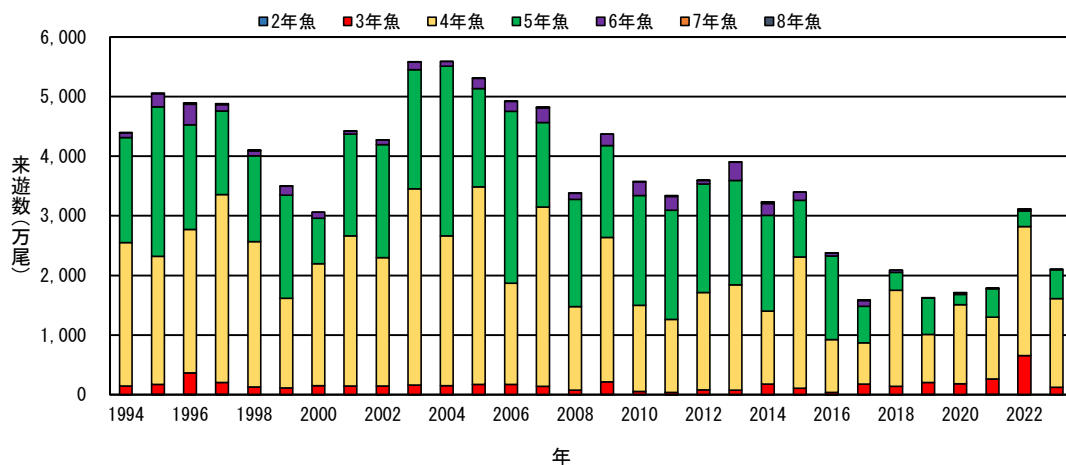


図1. 10月31日現在のサケ年齢別来遊数（北海道）。

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2019年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2018年級の平均の103%の水準となっています。また、今年の5年魚である2018年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊

数) は、1992～2017 年級の平均の 84% の水準となっています (図 2)。

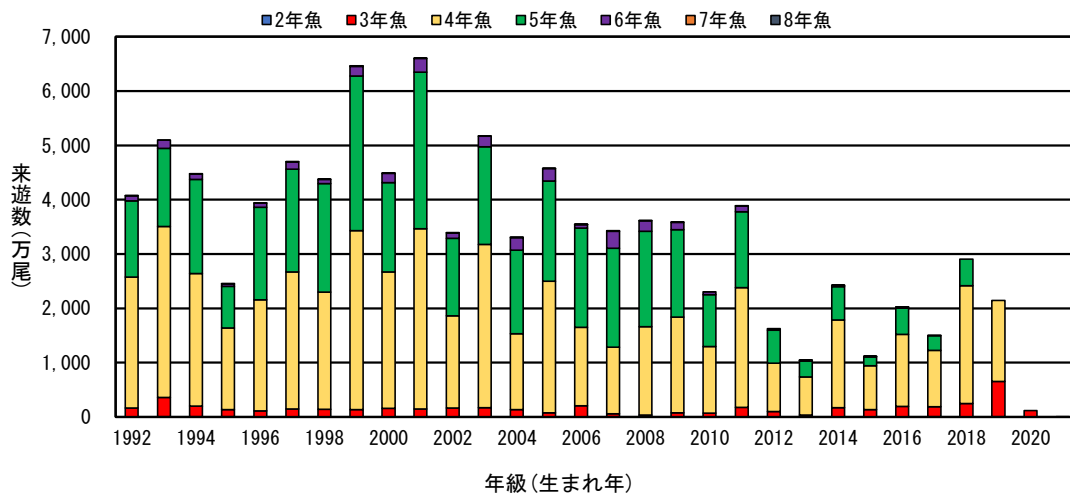


図 2. 10 月 31 日現在のサケ年級群 (生まれ年) 別来遊数 (北海道).

地域別にみると、北海道太平洋側 (根室海区～えりも以西海区) では、4 年魚の来遊数は前年同期の 70%、平年同期の 31% となっており、1994 (平成 6) 年以降で 4 番目に少ない状況です。5 年魚の来遊数は前年同期の 135%、平年同期の 9% となっており、前年同期は上回っていますが、1994 (平成 6) 年以降で 2 番目に少ない値となっています (図 3)。

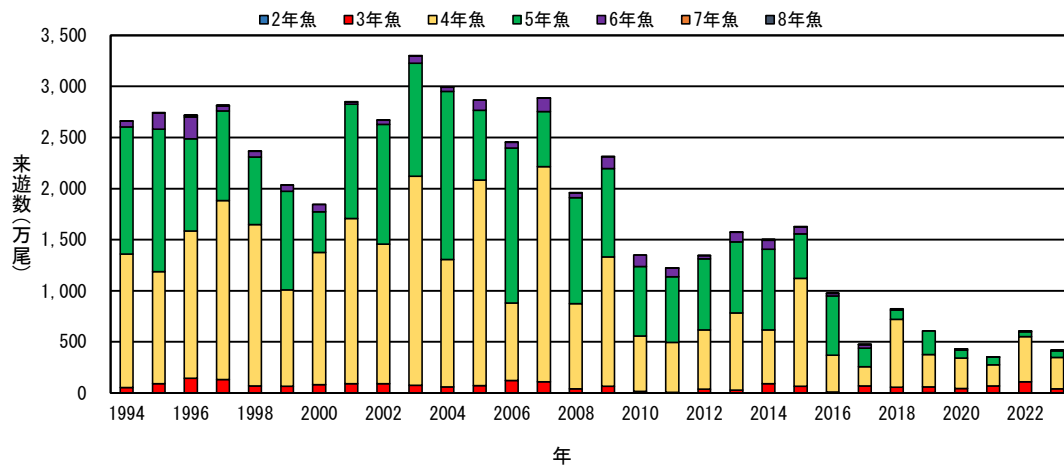


図 3. 10 月 31 日現在のサケ年齢別来遊数 (北海道太平洋).

北海道日本海側 (オホーツク海区および日本海区) では、4 年魚の来遊数は前年同期の 68%、平年同期の 125% となっており、1994 (平成 6) 年以降で 6 番目に多い値となっています。5 年魚は前年同期の 194%、平年同期の 57% となっており、1994 (平成 6) 年以降で 7 番目に少ない値となっています (図 4)。

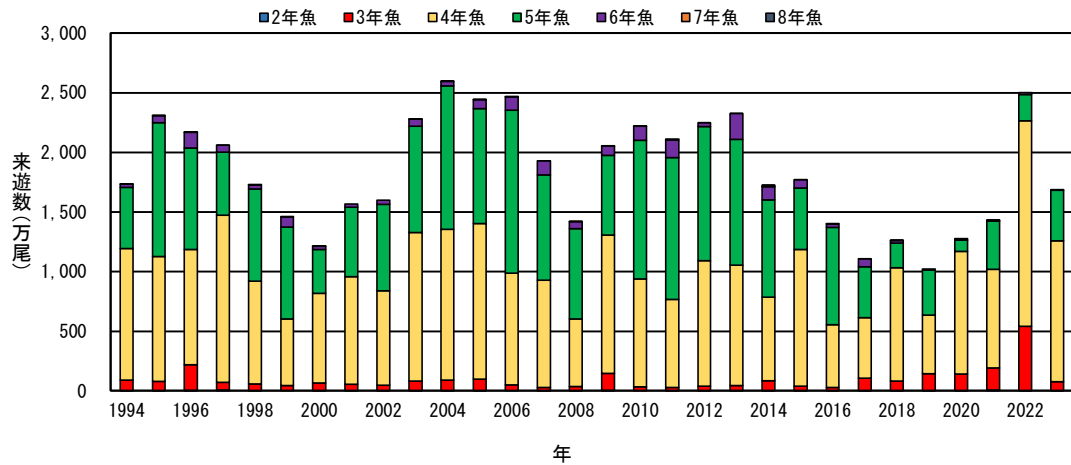


図4. 10月31日現在のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

・サケの体サイズ

北海道における10月31日現在のサケ1尾当たりの平均重量（漁獲数と漁獲重量から算出）は3.03kgであり、前年同期の平均重量2.84kgを上回りましたが、1994（平成6）年以降で2番目に小さい値となっています（図5）。

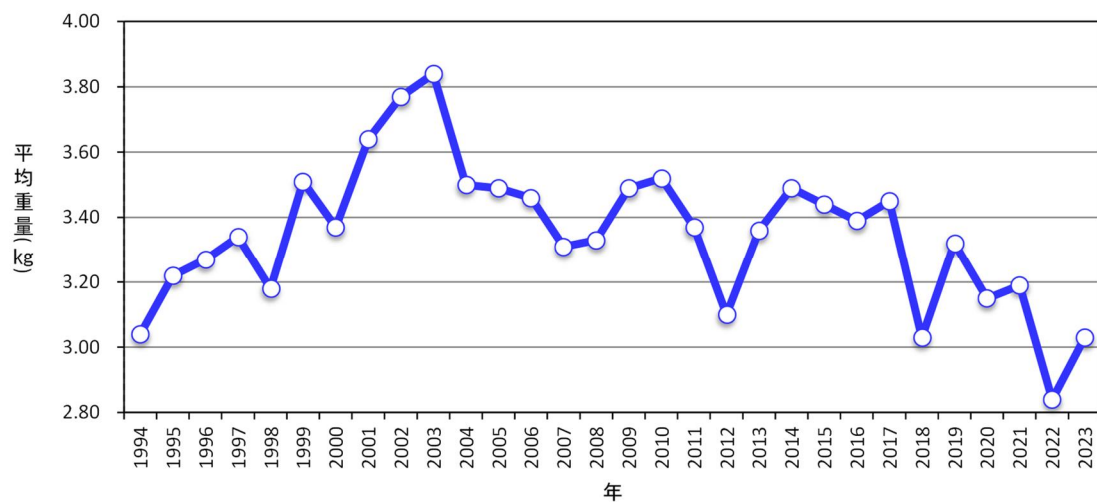


図5. 10月31日現在のサケ平均重量（北海道）.